



# 徳成寺 寺比かわら版 第196号 2023年4月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

「書を捨てよ 町へ出よう」寺山修司さんの言葉です。

長い長いコロナ禍のトンネルの先に、一筋の光が見え隠れ

するようになって参りました。これまで否応なく自宅で過ごす事を

余儀なくされて来ましたが、ついに町へ出かける気分になってきます。

人生は、書物やテレビあるいはネットの中にあるのではなく、人々が生きて

いる町の中にある。自分の夢や理想も、町の中でしか実現することはできない。

さあいい加減もう書物から離れて、現実の世界に飛び立とうではないか。そんな

寺山さんの気持ちが私たちの胸に心地よく響いて参ります。怖いかもしれないけど、

自分の殻から一歩外に飛び出したい。それが私たちに授かっていたいのちの要求ではない

でしょうか。さあ縮こまっているより、自分を越えた広くて大きくて深いものに  
出遇って参りましょう。

発行責任者  
住職  
大山健児  
坊主  
大山なほみ



## 大山超世の耳を澄ませば



お世話になっております、副住職です。お彼岸でお世話になりましたご門徒の皆様、ありがとうございました。3/13 から屋内外問わずマスクの着脱は個人の意思に委ねると言う事でアナウンスがありました。ようやく空気が変わり、コロナ禍が終息しつつあると言う雰囲気を感じております。マスク着用について、お坊さんはどうですかと尋ねられる事がよくありました。本山では参詣者対応の際にはマスク着用での対応が義務付けられている為、我々のような一般のお寺もアナウンスがあったからと言ってコロナ禍での対応と大きく変わる事はなさそうです。逆にお参りの方にマスクを外すかどうかを伺うと「まだ外せない。最初は違和感があったけど、最早マスクをつけないで外出する事が変な感じになってる」と言う声を聞きました。小学校の卒業を迎えるお子さんがいる家庭では「卒業式は外してもいいって言われたが、今更外してもいいと言われても恥ずかしいからマスクは外さない」と言う声も聞き大変びっくりしました。3年かけて新しい生活様式は確かに浸透して、大きな爪痕を残してきたんだと感じました。「普通」や「常識」と言うのは案外あっけなく変わるものです。4/9と4/23には統一地方選が控えております。「普通」や「常識」の名の下に様々な問題を生み出したニューノーマルを振り返る良い機会だと思いますので、皆さん選挙に行きましょう。